
流知佳(るちか)

ごはんライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

るちか
流知佳

【Nコード】

N3337J

【作者名】

ごはんライス

【あらすじ】

うーむ。なんじゃこれ…短すぎるのでこれも20枚くらいにしよう。

流知佳は普通の小学六年生。見た目も普通。そんなに美人でもないけど、不細工でもない。まあまあ可愛いって感じ。

スポーツも普通。あまり攻撃的な性格ではないから、ドッジボールをやったって相手にボールを当てるとかしない。でも、足は速いので当てられない。

勉強も普通。歴史が好きなので社会は満点だけど、計算が苦手なので算数は散々だ。

ただ、流知佳には一つだけ弱点みたいなのがあった。
きょうすけ

狂介という男子に好かれていたのだ。正直、流知佳は狂介のことはそんなに好きじゃない。なのに、狂介は流知佳にいろいろしてくれる。カレーを大盛にしてくれたり、宿題を手伝ってくれたりする。ちなみに狂介はイケ面である。女子に人気がある。

だから、流知佳は女子の恨みを買って、いろいろ嫌がらせをされるのだ。

今日もされた。誰かが、流知佳の椅子に画ビヨウを置いた。

「いてえー！ーっ！」

流知佳は飛び上がった。

後ろの席で女子たちがくすくす笑っている。

狂介があわてて走ってきた。

「だ、大丈夫か。流知佳」

狂介はカンカンだ。

「誰だ！こんな卑怯なことをするヤツは！」

流知佳は、あんたのせいだよ狂介、と言いたかったがこらえた。狂介の優しさを無下にはできない。

「かわいそうに。かわいそうに」

狂介は、流知佳のお尻をさすった。

女子たちはキレ気味の顔でこちらを見ている。

狂介はちよつと興奮してきて、流知佳の丸いセクシーお尻をいやらしい手つきでなでてしまった。

「いゃん！変態！」

流知佳はグーで狂介の腹を殴った。

「ぐはー！ーっ」

狂介は後方にぶっ飛び机に激突。机も狂介もひっくり返った。

女子どもはカンカンだ。

「あたしの狂介に！」

「なによ！この女！」

流知佳は逃げた。教室を出て廊下を走った。

怒りに狂った女子どもはシャーペンや日本刀、マシンガンを振り回し、追いかける。こ、殺される！

ついに屋上に飛び出し、鉄柵まで追い詰められた。

「もう後がない！」

とその時だ。

ぱらぱらぱら。

ヘリコプターだ。

「シーお兄ちゃん！」

流知佳の兄、死雅しまさが手を伸ばす。

「流知佳！捕まれ！」

「う、うん！」

流知佳は死雅の手をつかんだ。そのまま、死雅は流知佳をヘリコプターの中に持ち上げ乗せた。

「へへーん。バーカ」

流知佳はヘリコプターから女子どもに向けあっかんべーをした。

「ちきしょう」

女子の一人がむかつて消しゴムを投げた。

それがプロペラにクリーンヒット！

からまって、プロペラが止まってしまった。
落下。

「うわーーーーーっ」

「シー兄ちゃああああああああん!!」

へり、校庭に激突。

流千佳と死雅の葬儀が行われた。

「ぽくぽくぽく。なんみよーほれーん」

「しくしく。なんで。なんで死んでしまったの」

「流千佳ちゃん」

みんな悲しくて悲しくてめそめそ泣いている。

うっとうしいぜ!

人はいつかは死ぬのさ!

それが早いか遅いかの問題!

めそめそすんな!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3337j/>

流知佳(るちか)

2010年12月14日19時31分発行